平賀多目的広場の照明設置・人工芝化の実現可能性について

～ 市議会 一般質問のポイントと質疑応答の整理、そして将来のイメージ ～

1. 現在の平賀多目的広場（イメージ図）



- 平成27～28年度に整備
- 平成29年5月 供用開始
- ソフトボール・野球・サッカー・グラウンドゴルフなど多目的に利用
- 現在は天然芝（照明なし）

2. 整備後のイメージ（照明設置・人工芝化）



3. 施設イメージ図（整備内容の詳細）



4. 整備にかかる費用の試算（市の答弁）

照明設置（12基・高さ15m・100ルクス）

初期コスト（概算）	約1億7,000万円
toto助成金	2,000万円（スポーツ施設等整備事業）
実質負担額（概算）	約1億5,000万円
ランニングコスト	年間 約150万円（電気料金）



人工芝化（ロングパイル65mm・面積 約15,000㎡）

初期コスト（概算）	約3億6,800万円
toto助成金	4,800万円（人工芝生化新設事業）
実質負担額（概算）	約3億2,000万円
ランニングコスト	5年ごとに約750万円（ゴムチップ補充・かきほぐし整正など）



5. 他自治体・施設との比較

項目	平川市（今回の試算）	弘前市（運動公園球技場）	東奥義塾高校
人工芝面積	約15,000㎡	約10,700㎡	約8,900㎡
芝の長さ	65mm	62mm	55mm
工事費（概算）	3.68億円	2.6億円	8,200万円
toto助成金	4,800万円	0.4億円	なし
照明（工事費）	1.7億円（12基・15m）	0.8億円（4基・20m・200ルクス）	なし
合計（概算）	**5.38億円**	**2.8億円**	**8,200万円**

6. 一般質問の主なポイント（葛西勇人議員）



葛西勇人 議員

1. 陸上競技場の人工芝化は費用が約4.9億円と高額で、サッカーに適さない。
2. 平賀多目的広場は照明用の配管が既に整備されており、実現可能性が高い。
3. 市内にはサッカーでスパイクを履いて練習できる場所が少ない。
4. 費用面以外の課題、初期・ランニングコスト、toto助成金、実現の可能性について市の見解を求めた。

さらに、議員は次のように主張

- 弘前市や東奥義塾高校の事例から、工夫によりコストを抑えることも可能。
- 人工芝化により、通年利用・雨天後の早期利用・部員増加・大学やクラブチームの利用など幅広い効果が期待できる。
- サッカーだけでなく、ラグビー・運動会・地域住民のレクリエーションなど多目的に活用可能。
- 15年程度使用でき、長期的には投資効果が高い。
- 市民の健康増進、次世代アスリートの育成、人口増加・にぎわい創出にもつながる。
- 長期総合プランに位置付け、将来的に整備してほしい。

7. 市の答弁（質疑応答の要点）



市長（長尾 忠行）

- 平賀多目的広場は多目的に利用されている。
- 照明・人工芝化は可能だが、初期費用が多額であり、現在のところ設置の目途は立っていない。
- 現在は長期総合プランに基づき、学校施設・庁舎移転・健康センターなど多くの施設整備を進めており、限られた財源の中で優先順位を考える必要がある。
- 今すぐ整備する考えはないが、今後の課題として検討していきたい。



教育長（須々田孝聖）

- 照明設置：初期コスト約1億7,000万円、toto助成金2,000万円、ランニングコスト年間約150万円。
- 人工芝化：初期コスト約3億6,800万円、toto助成金4,800万円、ランニングコスト5年ごとに約750万円。
- 費用面以外の大きな課題は現時点ではない。
- 人工芝化により波及効果は期待できる。
- 照明については、陸上競技場・尾上球場・ひらかドームなど既存施設も利用可能。現状をうまく利用してほしい。



葛西勇人 議員

- サッカーは他競技に比べ練習環境が整備されている。
- 長期総合プランに位置付け、将来的に整備してほしい。
- 市民の健康増進やアスリート育成、人口増加・にぎわい創出につながる。
- 今すぐではないが、前向きに検討してほしい。

8. 期待される効果（整備後のメリット）

- **通年利用**：スパイクで練習・試合可能
- **積雪後も使用可能**：雪片付け後すぐにプレーできる
- **雨天後も早期利用**：水はけが良く翌日から使用可能
- **部員増加・競技力向上**：子どもから大人まで継続的に練習できる
- **大学・クラブチームの利用促進**：合宿・練習の誘致
- **ラグビー・運動会・地域レクリエーションなど多目的利用**
- **市民の健康増進**：スポーツによるまちの活力向上
- **次世代アスリートの発掘・育成 人口増加・にぎわい創出**